

県内「へき地」における「出かせぎ」の実態について

—婦中町における調査事例—

富山県立技術短期大学 衛生工学科

長谷田 祐 作

はじめに

農村における経済的低位性に対する適切な国の施策が要望されること久しいが、現実には各農家自らがその解決に当たらざるを得ず、その一つの現われが「出かせぎ」という形で見られることは周知の通りである。

この「出かせぎ」は保健衛生の面からも問題があり、指導・対策を必要とすることはいうまでもない。

さきに富山県農村医学研究会が発足するに当たって、県内におけるこの方面の実態を明らかにし適切な対策を講ずることが一つの課題として取り上げられたのであるが、今回県内の一地区における実態について調査する機会を得たのでその結果をここに報告する。

調査対象地区、方法及び地区の概況

調査対象地区は、下記の通りで別図に示される地域であり県では無医地区の一つに指定している。

富山県婦中町	平等地区
	大瀬谷地区
	葎原地区

その概要については本誌第3巻を参照されたい。

調査方法は第1表(1)、(2)に示すような調査票及び記入要領を各地区総代を通じ各戸に配布し、昭和46年1月より同年12月に至る1年分の事実につき記入することとして行なったが、配布は昭和46年12月下旬、記入は翌47年1月中に、そして同年2月末日までに回収を終了した。

収入内容などについては町民税賦課状況から

も検討したが、調査票記入内容と概ね一致することを確認し得た。

農家所得を町民税賦課内容から見た場合、一戸当り平均年所得は該当世帯の夫婦単位で第2表の如くであり、家族収入を考慮に入れるとしても富山県平均を遙かに下廻ることが推察される。

また参考として対象地区の各世帯について農業経営者の世代を基準世代として家族類型を挙げると第3表の如くでA地区は現在発達段階にありC地区では発達完了後の核家族化傾向を示していることが考えられる。なお家族周期による各段階の内容は次の通りである。

I段階：経営主夫婦ないし経営主夫婦とその子供の、いわゆる核家族であるもの。

II段階：経営主夫婦とその子供及び経営主の両親、すなわち三代に亘るもので子供は生産年齢に達していないもの

III段階：II段階での子供が生産年齢に達しているもの

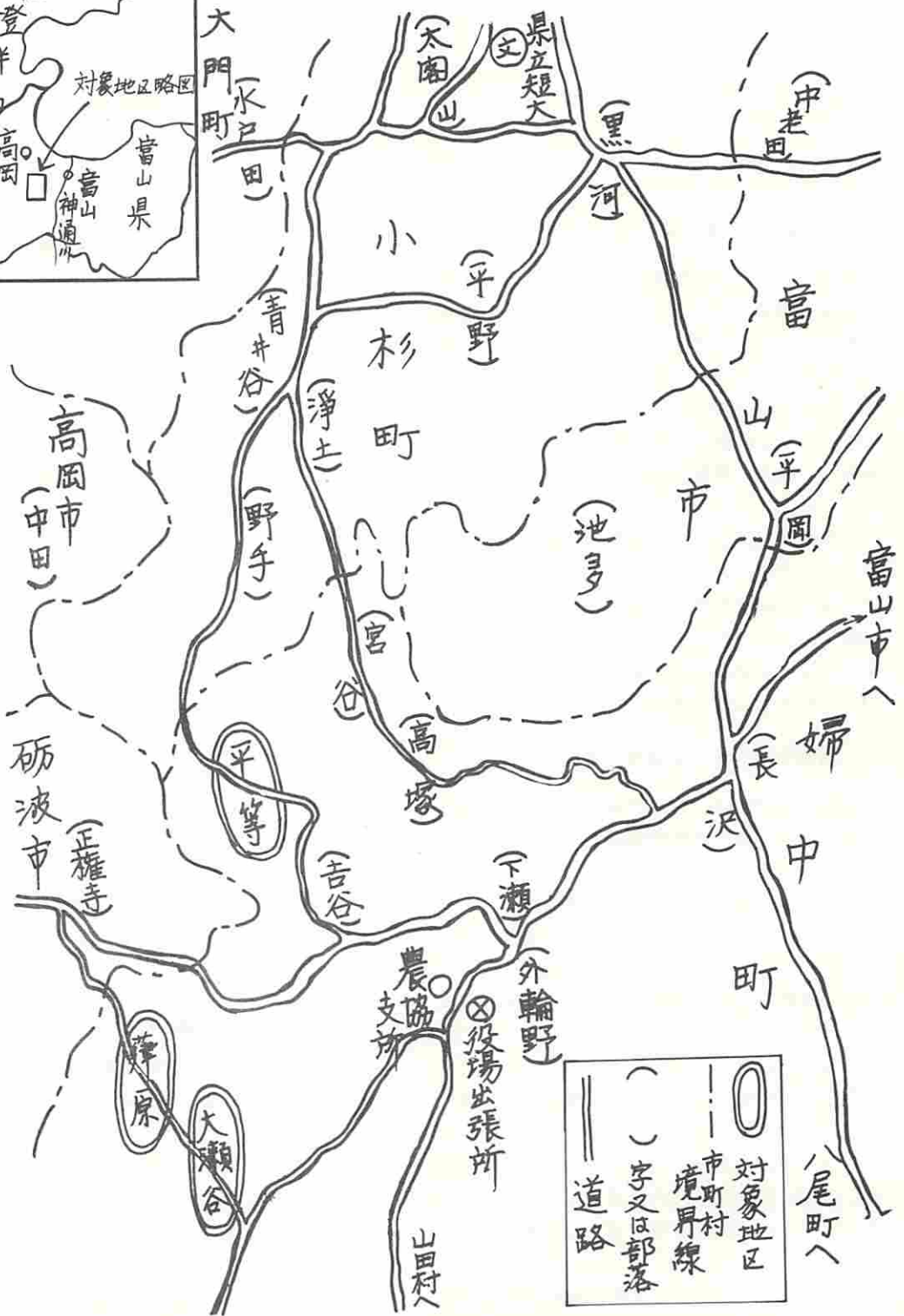
IV段階：III段階での子供が結婚しているもの

V段階：IV段階で結婚している息子夫婦に子供のあるもの

調査の結果

第1表に見る如く調査は農家の経済的基盤を構成する農外収入つまり副業全般を対象として行なったが、ここでは「出かせぎ」に限定して考察することとし、「出かせぎ」については「定職・家業としての農業の余暇に不定期的にそて働いて収入を得るもの」をいい、恒常的給与という形で収入を得るものなどは除外した。また農業収入のうちには山林収入(3件)を含め

別図 対象地区略図



第1表(1)

副業(出稼ぎ・内職など)調査票 昭和 年

世帯主: 明・大・昭 年 月 日生(男・女) 職業業: 農林業、勤務者() 自営()

世帯 の 構成	続柄	男		女		男		女		男		女		男		女					
	年月日	明	大	昭	年	月	明	大	昭	年	月	明	大	昭	年	月	明	大	昭	年	月
職業																					
I 従事した 副業の種類、 内容など	A 県内・県外・国内	A 県内・県外・国内		A 県内・県外・国内		A 県内・県外・国内		A 県内・県外・国内		A 県内・県外・国内		A 県内・県外・国内		A 県内・県外・国内		A 県内・県外・国内					
	1 2 3 4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
	5 ()	5 ()		5 ()		5 ()		5 ()		5 ()		5 ()		5 ()		5 ()					
	B 1 2 3 4 5 6	B 1 2 3 4 5 6		B 1 2 3 4 5 6		B 1 2 3 4 5 6		B 1 2 3 4 5 6		B 1 2 3 4 5 6		B 1 2 3 4 5 6		B 1 2 3 4 5 6		B 1 2 3 4 5 6					
	7 8 ()	7 8 ()		7 8 ()		7 8 ()		7 8 ()		7 8 ()		7 8 ()		7 8 ()		7 8 ()					
II 知った経 路	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7					
	()	()		()		()		()		()		()		()		()					
III 従事した 月・期間な ど	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7					
	8 9 10 11 12	8 9 10 11 12		8 9 10 11 12		8 9 10 11 12		8 9 10 11 12		8 9 10 11 12		8 9 10 11 12		8 9 10 11 12		8 9 10 11 12					
	合計 日間	合計 日間		合計 日間		合計 日間		合計 日間		合計 日間		合計 日間		合計 日間		合計 日間					
IV 報 酬 (収入)	1日 円	1日 円		1日 円		1日 円		1日 円		1日 円		1日 円		1日 円		1日 円					
	1枚・個・回 円	1枚・個・回 円		1枚・個・回 円		1枚・個・回 円		1枚・個・回 円		1枚・個・回 円		1枚・個・回 円		1枚・個・回 円		1枚・個・回 円					
	年間合計 円	年間合計 円		年間合計 円		年間合計 円		年間合計 円		年間合計 円		年間合計 円		年間合計 円		年間合計 円					
V 主な使途	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7					
	()	()		()		()		()		()		()		()		()					

第1表(2)

副業調査記入要領

(該当するものを○で囲み
必要事項を記入する。)

I 副業の種類・内容

A = 出稼ぎ 県内・県外・国外

1. 農 作 業
2. 水 産(漁)作 業
3. 家庭住宅などの建築作業
4. 道路・橋梁など建設作業
5. そ の 他 ()

B = 内 職

1. あみものなど
2. 製本袋・マッパ加工など
3. プラスチック製品など
4. 時計・電気器具など
5. 玩具・人形・造花など
6. 塗装・洗濯など
7. トウシャ・筆耕・タイプなど
8. そ の 他 ()

II 知った経路

1. 親戚・知人
2. 農 協 組 合
3. 広告・はり紙
4. 内職公共補導所・相談員
5. 仲 介 人
6. 直 接
7. そ の 他 ()

III 従事した月・期間など

1月から12月までのうち該当する月、従事した日数の合計

IV 報 酬(収 入)

A(出稼ぎ)の場合=1日あたり何円かを記入

B(内 職)の場合=1枚・個・回あたり何円かを記入

年間の合計額 何円かを記入

V 主 な 使 途

1. 生活費の一部にあてる
2. 教育費用にする
3. 耐久消費財(テレビ・冷蔵庫・自動車など)の購入費にあてる
4. 旅行・レジャーの費用
5. 小づかい
6. 貯 金
7. そ の 他 ()

(注) この調査は農村医学会(学術)用で他の目的に使用することは絶対にありません。
ありのままを記入して下さい。

第2表

1戸当り年平均所得

(昭和46年-10円以下切り捨て)

	調査対象地区				富山県	全 国 (昭和45年)
	A地区	B地区	C地区	3地区平均		
農業収入	216,200円	299,900円	190,600円	238,000円	410,000円	508,000円
農外収入	443,100円	313,400円	295,400円	345,500円	1,458,000円	885,200円
合計収入	659,300円	613,300円	486,000円	583,500円	1,868,000円	1,393,200円

第3表 家族類型

	I	II	III	IV	V
A地区		5	6	1	2
B地区	1	6	8	2	4
C地区	5	6	5		
合計	6	17	19	3	6

注 第2.3表におけるA.B.Cは
同一地区を意味するものではない

て取扱った。

調査地区総世帯数55のうち該当世帯31で、そのうち22世帯から回答を得たので回答率は70.96%となる。

各項目毎に得られた成績は次の如くである。

I 従事した「出かせぎ」の種類・内容など
回答全数が従事場所として県内を挙げ県外ないし国外は見られなかった。

従事した労働・作業の種類としては次の通りである。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 農作業…… 5 | 3. 建築作業…… 4 |
| 4. 建設作業… 6 | 5. その他……… 5 |
| 不明……… 2 | |

II 知った径路について

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 親戚・知人……13 | 6. 直接……… 1 |
| 不明……… 8 | |

すなわち大半は親戚・知人より情報を得る様子が農協その他を明記したものは見られなかった。

III 従事した月・期間など

従事日数については下記の如く100~150日が最も多く、次いで50~100日が多い。

- | | |
|--------------|--------------|
| 50日以内…… 2 | 50~100日…… 6 |
| 100~150日…… 9 | 150~200日…… 3 |
| 不明……… 2 | |

何月に「出かせぎ」に従事するかについて、記入月数の累積度数を見ると下記の通りで、冬の農閑期と見られる11月~12月が最も多い。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1月… 6 | 2月… 9 | 3月…11 |
| 4月… 7 | 5月… 4 | 6月…11 |
| 7月…10 | 8月… 8 | 9月… 4 |
| 10月… 5 | 11月…14 | 12月…14 |

しかし夏季の6~8月にも、かなりの「出か

せぎ」者があることはI項で農作業5件あったことに関連するが、一般に「へき地」と称される地域に共通する所得水準の低位性を示すものであろう。

IV 報酬・収入

年間収入金額については次の通りで約半数は30万円以内となっている。

- | |
|---------------|
| 10万円以内……… 5 |
| 10~30万円以内……10 |
| 30~50万円以内…… 5 |
| 70万円以内……… 2 |

V 主な使途

下記の通り最も多いのは、(生活費の一部にあてる)であり、4(旅行・レジャーの費用)、6(貯金)は各3件で最小を示した。

単一使途

- | |
|-----------------------|
| 1. 生活費の一部にあてる …… 8 |
| 3. 耐久消費材の購入費にあてる …… 1 |

複合使途

- | | |
|---------------------|-----------|
| 1.2.3. …… 1 | |
| 1.2.3.5. …… 1 | |
| 1.3.5.7. …… 1 | |
| 1.2.3.4.5.7. …… 1 | |
| 1.2.3.4.5.6.7. …… 2 | |
| 1.3. …… 1 | 1.6. …… 1 |
| 1.7. …… 2 | |

不明	3
すなわち累積度数として挙げると次の如くなる。	
1. 生活費の一部にあてる	17
2. 教育費用にする	5
3. 耐久消費財の購入費にあてる	7
4. 旅行・レジャーの費用	3
5. 小づかい	5
6. 貯金	3
7. その他	5
不明	3

考按とまとめ

「出かせぎ」とは農林省統計調査用語の規定では「1～6カ月の予定で家を離れてよそで働く者」とされているが、今回の調査では農林業の閑期を利用する在宅通勤の形で就業していることが確認され、従って就業場所は県内に限定されている。

農(林)家世帯数は51(92.72%)を占めているが、そのうち「出かせぎ」を行なっている世帯は31(60.78%)であった。

家族類型から見た場合、発達完了後の核家族化傾向を示す地区は過疎化への移行を強くするのではないかと予測されるが今後の観察を必要とする。

「出かせぎなど」調査票について回答の得られた22世帯についての知見は、労働・作業の内容として農作業・建築・建設などの作業が過半数を占め、作業に従事する季月としては3月、6月、11月、12月などであるが、年間を通じた作業従事日数としては150日以内が大半を占めている。

対象地区農家の二、三について面接を行なって知り得たが、これら「出かせぎ」の際には、事前に健康診断を受けるよう農協ないし役場から勧奨されているとのことであるが、その内容、例えば何れの医療施設を利用するか、受診状況はどうかなどについては不詳である。

なお所轄保健所では隔年に1回、当該地域に対し集団検診を行なっているが、保健所ないし役場保健婦による定期的、継続的家庭訪問は行

なわれていないとのことで、所属農協に保健婦設置を希望する声も聞かれたが検討を要する問題であろう。

「出かせぎ」による年間収入は大半は30万円以内であり、これらはほぼ一義的に生活費の一部として使用され貯金ないしレジャーに向けられることは稀であった。

おわりに

無医地区として県より指定されている「へき地」のうち、婦中町における地区を対象とし、保健衛生のBack Groundとしての社会的経済的一側面である「出かせぎ」の実態について調査の結果を報告したが、調査に御協力頂いた地区住民各位、婦中町農協及び音川支所、婦中町役場の諸氏に衷心より謝意を表する次第である。

本論文をまとめるに当って本学小林助教授よりいろいろと御助言を賜わったことを附記して謝意に代えることとしたい。

文 献

- 1 家族社会学 森岡清美
- 2 農林水産統計調査用語集 農林省
- 3 農家経済調査報告 昭和45年度 農林省
- 4 富山県農業のうごき 昭和47年9月
富山県農林水産部
- 5 富山県立大谷技術短期大学研究報告
第3巻 昭和45年2月
- 6 富山県農村医学研究会誌 第3巻
昭和47年3月
- 7 公衆衛生 第35巻第6号 昭和46年
6月